

清流

題 字 : 芳野 充

令和3年9月30日

第57号

発行所 加来不動産㈱

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに

清流のように

機敏さが良縁をつくる

今月ご紹介させていただく「二十の徳目」は、十四番目の「機敏^{きびん}」です。「機敏」とは、時期をのがさず、すばやく判断し行動に移すことです。

この言葉でふと頭に浮かぶ人物がいます。それはわたしどもの会社で働いてくれている女性スタッフのIさんです。わたしは社内ですべての社員にむけて話すことがおおい立場ですが、例えば「この本はおススメですよ」「このような行動が好ましいと思います」と声をかけると、Iさんはすぐに行動にうつしてくれます。そして紹介した本を読んだ感想や、行動して感じたことなどを報告してくれます。また、比例してIさんの仕事ぶりは機敏です。このようなIさんに対してわたしは、Iさんが必要としてそうな情報があれば声をかけよう、困ったことがあれば助けになろう、と自然と思えます。

一方で、こちらのアドバイスなどを聞いても行動しない人もおおいものです。そのような人には、「こちらから声をかけるのは控えよう」「わたしから何か手を貸すのはやめておこう」という気持ちになります。かく言うわたしも以前はそのような人間でした。人のアドバイスなどを聞いても行動する前から、「自分には合わないからやめておこう」「今は忙しいのでそのうちやろう」「面倒だから聞かなかったことにしよう」と行動していませんでした。そのときのわたしの周りには残念ながら、すばらしいと思える人との縁は少なかったと記憶しています。しかし、機敏さが人を安心させ、また信頼を生むことにつながると理解してからは、行動に変化ができました。

この人は、と思った人とお会いしたときには、次の日にお礼の手紙を書く、あるいは電話でお礼を伝える。依頼された業務はゆとりをもって仕上げる。期限に間に合いそうにないときには、早い段階で連絡を入れ相談する。いただいたアドバイスは即実行にうつし、その感想や結果を伝えるなど。そうしていくうちに、気づけば尊敬する人がまわりに増えて、またわたしを慕^{した}ってくださる人たちも少しずつではありますが、増えてきたように感じています。

機敏^{きびん}さの対義語^{たいぎご}は「鈍重^{どんじゅう}」です。「鈍重」とは、動作や物事に対する反応がにぶくのろいこと。このような人は良縁をつくることはむずかしいのではないのでしょうか。機敏さは、相手のことを思いやらなければ身につきません、と素心学塾塾長の池田繁美先生はおっしゃいます。良縁をつくるには、相手を思いやり時期をのがさず、すばやく判断し行動にうつす機敏さが大切だと思います。機敏に行動し良縁をふやし、味わい深い人生を送りたいものです。

加来 寛

